

活動報告書

報告者氏名： 菊池昭子 所属：県立相模原養護学校中学部

記録日：H25年2月28日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部3年
- ・障害名 ダウン氏症候群
- ・障害と困難の内容

就学前から、ひらがなとかたかなは、ほぼ読み書きができる力を持っていたが、障害の特性上続けて学習に取り組まなければ忘れてしまう文字もでてきてしまい、現在も不確実な文字がある。気分が向くと一所懸命取り組めるが、のらなければ難しく自分の世界のごっこ遊びに没頭してしまう。興味のあることには造詣が深く車や古い道具、国名などはよくわかっている。発音が不明瞭であり、間違っておぼえている言葉も多いので慣れていないと聞き取りにくい。

【活動目的】

- ・当初のねらい

中学部3年の2学期から友だちと一緒に居ることを恥ずかしがりはじめ、登校をしぶりはじめた。また、学校にきても勉強することを嫌がるようになった。そのため学校に登校してきてもらうために、本人の好きな活動を用意して提示した。その活動で一番好きなものがiPadであった。登校してあげばいつでも使えるように、本人専用で1台確保してもらった。iPadを楽しみに登校できる日が増えたらと願って使用をはじめた。また、楽しみながら文字の学習ができることをねらいとした。

- ・実施期間

平成24年9月～現在

- ・実施者

菊池昭子（特別支援学校教諭）

- ・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

中3になってから、友だちと一緒にの場所にいられなくなり、だんだんと学校が楽しくない、行きたくないと訴えるようになった。また、学校に登校できても、友だちと同じ場所で学習することが難しくなり、皆と同じ学習課題を提示すると拒否するようになっていた。

・活動の具体的内容

登校したら、すぐに iPad を提示して好きなアプリを自由に使って、本人が楽しいと感じるような環境を作った。かなトークを用いて、教員としりとり遊びを行い、楽しみながら言葉の学習に取り組んだ。

・対象児（群）の事後の変化

だんだんと学校が楽しいと家庭で言うようになった。当初は一日のうちに iPad や自分の好きな活動しかできなかったが、現在は iPad の取り組みを時間で区切り、他の生徒と同じ課題に取り組み、終えたらまた iPad を取り組むというような、めりはりのある使い方ができるようになった。かなトークでのしりとり遊びを、教員とのマンツーマンの取り組みから徐々に友だちを交えての取り組みができるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

iPad を使用すれば、ゲームが主要になるかと思っていたが、ゲーム的なアプリを使用することはほとんどなく、文字の学習やお絵かきなど美術的なものなど学習に関連することを楽しみながら取り組むことができた。

・エビデンス（具体的数値など）

・その他エピソード（画像などを含めて）